



de triomphe de la ploutocratie

「金権政治の勝利」と題する、極めてシヨッキングな題の作品である。芸者と昼間から遊びふける政治家。明治時代、政治家や金持ち商人が昼間からキレイどころを連れて歩くのは珍しいことではなかったらしい。二人の乗っているのは「合い車」と呼んだ二人用のものである。政治家は選挙を有利にするために、常に金が必要であり、集金能力が政治家としての重要な能力であったことは、フランス人の画家の目にも、歴然たるものがあつたようだ。

「踏み切り番」

東海道線の「旗振り」という踏み切り番である。女性がこうした仕事をしていたことが興味深い。

明治二十年代から三十年代にかけて、このような女性が日常的に見られたのであろうし、雨降りの後らしく、女性は高下駄を履き、後ろの見物人も蓑、笠姿であるのが、フランス人には珍しいのであろう。



jeudi l'année